



联合国  
粮食及  
农业组织

FOOD AND  
AGRICULTURE  
ORGANIZATION  
OF THE  
UNITED NATIONS

ORGANISATION  
DES NATIONS  
UNIES POUR  
L'ALIMENTATION  
ET L'AGRICULTURE

ORGANIZACION  
DE LAS NACIONES  
UNIDAS PARA  
LA AGRICULTURA  
Y LA ALIMENTACION

منظمة  
الغذية  
والزراعة  
للأمم  
المتحدة

### Liaison Office in Japan

5F Yokohama International Organizations Center, Pacifico-Yokohama,  
1-1-1, Minato Mirai, Nishi-ku, Yokohama 220-0012, Japan

Tel. (045) 222-1101  
Facsimile: (045) 222-1103  
E-Mail Address: FAO-LOJA@FAO.ORG

FAO(国際連合食糧農業機関)日本事務所

2011年4月1日

LOJAPR11/13-No. 194

## プレスリリース

### 通商上の監視品目リストに推奨された農薬並びに工業化学物質 ロッテルダム条約化学物質調査委員会会合

2011年4月1日ローマ:国連の化学物質専門家は、農薬2種—エンドスルファン(Endosulfan)及びアジンホスメチル(Azinphos methyl)—と、極めて有害性の高い農薬製剤—グラモキソンスーパー(Gramoxone Super)—を、ロッテルダム条約の事前の情報に基づく合意手続きに含めることを推奨することとした。また、工業化学物質3種—パーフルオロオクタンスルホン酸(PFOS, perfluorooctane sulfonate)とその塩及び前駆体、ペンタブロモジフェニルエーテル(pentabromodiphenylether, pentaBDE)の産業混合物、そしてオクタブロモジフェニルエーテル(octabromodiphenylether, octaBDE)の産業混合物—も、併せて含めるように推奨された。

ロッテルダム条約化学物質調査委員会は、ベニン、カナダ、ヨーロッパ連合、日本、ニュージーランド、そしてノルウェイにおける、人体や環境に受容し難いレベルの危険をもたらす恐れのある化学物質の使用の制限・禁止についての各国規制措置を調査検討して、その提言を行っている。

「2004年に条約が施行して以来初めて、委員会は極めて有害な農薬製剤を監視項目リストに加え、加盟各国の知る権利及び化学物質が安全に取引される権利の保護を推進した。」とFAOのピーター・ケンモアロッテルダム条約共同事務総長は述べた。

グラモキソンスーパーは二塩化パラコート(paraquat dichloride)を含む除草剤で、綿花、米、トウモロコシの雑草除去に用いられる。ブルキナ・ファソは、グラモキソンスーパー製剤を利用した領土に問題が生じた体験から、条約別添IIIの極めて有害な農薬製剤(severely hazardous pesticide formulation, SHPF)としてグラモキソンスーパーを載せるよう提案したものである。

ペンタブロモジフェニルエーテルとオクタブロモジフェニルエーテルの産業混合物は、臭素化難燃剤である。それらの毒性及び持続性故に、その産業製品はストックホルム条約において、残留性有機汚染物質として除去の対象となっている。

「これら3種の工業化学物質を含めることを提言したことは、人体や環境へ害があるとされる物質の化学物質調査委員会への調査対象提出の加速化を意味する。結果として、これは、姉妹調査委員会とも

言うべきストックホルム条約の科学調査委員会との共同情報交換によるものである。」とドナルド・クーバーロッテルダム条約共同事務総長は述べた。

この提案は2011年6月の第5回ロッテルダム条約加盟国総会に持ち込まれる予定である。

## ロッテルダム条約

国際連合食糧農業機関(FAO)及び国際連合環境計画(UNEP)が共同で支援しているロッテルダム条約は、好ましからざる化学物質の貿易を法的拘束力のある事前の情報による同意(prior informed consent, PIC)手続きを含み、防ごうとするものである。

ロッテルダム条約は禁止令ではなく、寧ろ情報交換メカニズムにより、有害化学物質の貿易に関する意思決定を改善する支援しようとするものである。有害可能性のある化学物質に関する情報や決断を加盟国政府間で交換することにより、将来そのような化学物質を輸入するか否かを決めるのに役立てるものである。

条約は、輸出通知条項及び化学物質に共通のラベルを貼ることを推奨することで、有害化学物質の国際貿易の透明化を推進し、不正使用に対しての脆弱性を弱めるものである。輸出する加盟国は、輸入国側がその化学物質に関するPICに同意をしないと決断した場合には、如何なる輸出もその領域内から出さない責務を負う。

この様にして、ロッテルダム条約は加盟国政府が自国の化学物質管理能力及び人体と環境を保護する能力を向上させることを支援するのである。また、全ての関係者に対して、より安全な代替物質を特定・推進するよう薦めるものである。

## FAOの緑化

化学物質調査委員会は、国際連合食糧農業機関(FAO)で初めて完全にペーパーレスで開催された会合である。ペーパーレスの会合は、会議における二酸化炭素排出量の相当な減量に貢献するものである。

英語URL:<http://www.fao.org/news/story/en/item/54392/icode/>